

## Daily Market Report 2020/9/4~6

2020.9.7

「苦しい展開が続くビットコイン、1万ドルを挟んだ攻防が続く」

### Daily Point

- ・ビットコイン、主要仮想通貨取引所で一時1万ドル割れ (COINPOST)
- ・米雇用者、8月は137万人増－失業率は8.4%と予想以上に低下 (Bloomberg)
- ・米国株式市場＝続落、「FANG」銘柄の下げ続く (Reuters)



BTCJPY 一時間足 当社社内ツールより作成

先週末 (9/4-6) のBTCJPYは大きなボラティリティを伴った下落となった。  
金曜日(9/4) は前日(9/3)の下落相場を引き継ぎ、午前8時頃に大きく売られて一時106

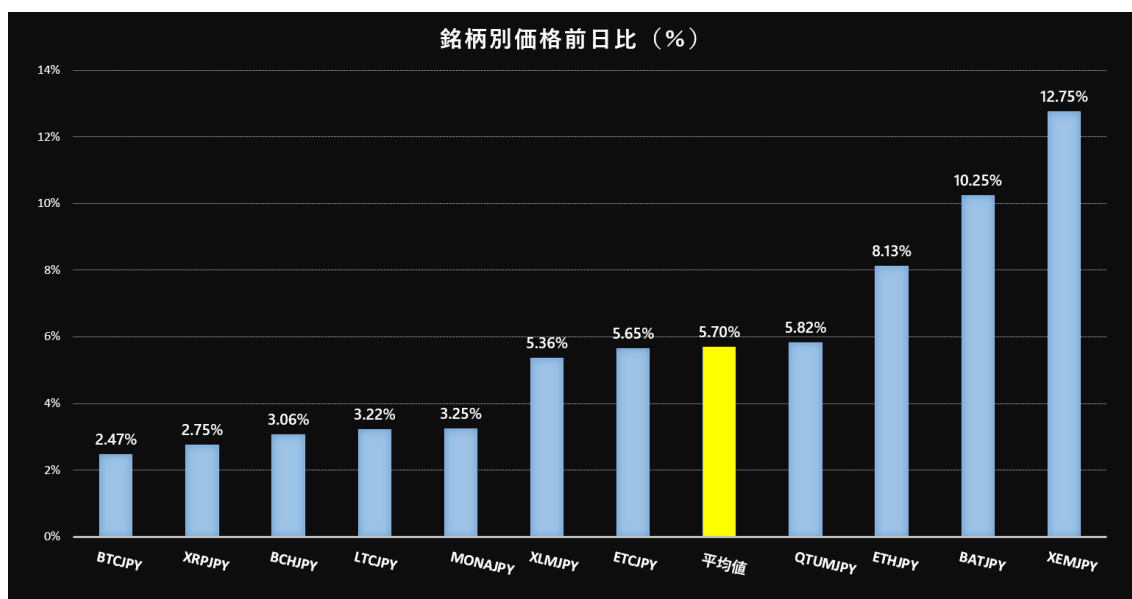
万円まで下げ、1時間で7万円幅の下落となった。その後はアルトコインの反発もあり、午前中のBTCJPYは109万円台を底堅く推移し、112万円台まで値を戻した。

午後9時半には8月の米雇用統計が発表。非農業部門雇用者数は市場予想140万人増に対して前月比137万人増。失業率は市場予想9.8%に対して8.4%と、4カ月連続での労働市場の改善が確認された。しかし、米株式市場がハイテク株主導の大幅下落で始まると、BTCJPYも再び下落に転じ、一時105万円まで下落。ただその後は押し目買いが入るなどして米国株が上昇に転じると、BTCJPYも連れてすぐに反転。そのまま朝方まで上昇を続け、米国市場時間の下落分を回復した。

土曜日(9/5)は続落。変わらず揉み合いながらも軟調で、アルトコインも連動して全体的に下落基調で推移。特にXEMJPYはこの一週間で大きく上昇していたことから下げ幅も大きく、午後5時から午後9時までに4円(約26%)下落し、11円台をつけた。BTCJPYも同様に106万円まで下落するが、この10,000ドルラインでは底堅さを見せ、すぐに反発。しかしその後も下落の勢いは収まらず、日付が変わって翌午前0時以降に5時間連続で陰線となり、再び10,000ドル付近に押し戻される。だがここも節目を割ることはなく、翌午前7時にかけて107万円まで値を戻した。

日曜日(9/6)は小幅上昇。午前8時頃に反発して108万円台半ばまで値を戻したが、109万円付近では上値が重く、午前中は107万円から109万円の間で揉み合いが続いた。午後2時頃からは価格を切り上げていき、午後5時頃に109万円まで上昇。以降は朝方まで109万円付近でのレンジ推移を続けた。

## ・ 銘柄別価格前日比 (%)



社内データより作成

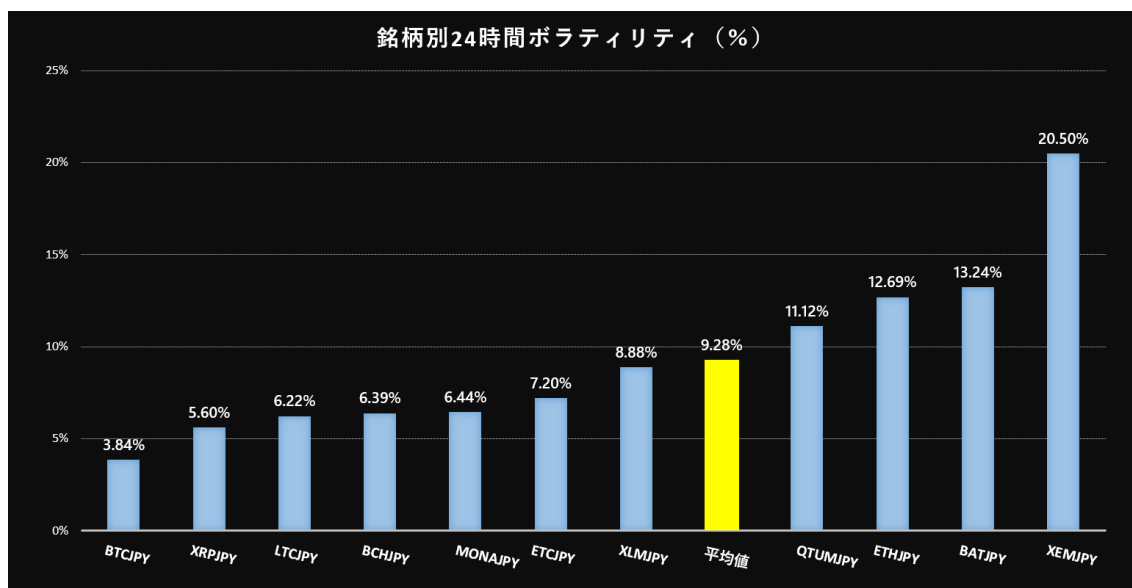
9/6 営業日の全暗号資産終値の前日比は上記グラフの通り。  
平均値は 5.70%、中央値は 5.36%、標準偏差は 3.23%。

最小上昇銘柄は BTCJPY の 2.47%。最大上昇銘柄は XEMJPY の 12.75%。

昨日は全銘柄とも上昇した。最小上昇銘柄の BTCJPY も上値重いながらも下げ渋りをみせていた。最大上昇銘柄の XEMJPY は、逆行高となった 9/3 営業日に続き、ステーキングサービス需要を背景とした買いが集まった。(後述)

全般を通して、アルトコイン主導の反発であったと読み取ることもできる。

## 24時間 ボラティリティ (%)



社内データより作成

9/6 営業日の全暗号資産の24時間ボラティリティは上記グラフの通り。

平均値は9.28%、中央値は7.20%、標準偏差は4.57%。

最もボラティリティが高かった銘柄は **XEMJPY** で **20.50%**。一方、最もボラティリティの低かった銘柄は **BTCJPY** で **3.84%**であった。

## ・8月に3倍上昇をみせたネム、今月の行方は？



XEMJPY 日足 当社取引ツールより作成

9/6 営業日の最大上昇銘柄は XEMJPY の 20.5%となった。

9/15 に symbol のオプトインが開始されるという好材料に加えて、先月の8月に5.4円台から16.3円台と価格が3倍まで上昇を続け、市場参加者からの買い意欲が旺盛であることから他銘柄と比較して反発幅も大きかったといえる。【詳細は、以前のレポート ([https://img.bitcoin.dmm.com/press/market/dmm\\_bitcoin\\_market\\_report\\_20200903.pdf](https://img.bitcoin.dmm.com/press/market/dmm_bitcoin_market_report_20200903.pdf)) の「[6 連騰失敗、5 連騰の上昇幅を吐き出したビットコイン。今後の行方は？](#)」のコラムで記載】

今回、①の16.5円より上の価格帯において、定着することができなかったネムは、9/5の大幅下落により②の13~13.5円のサポートラインをブレイク。ブレイク後は下落基調を強め③の10.5円のサポートラインを試す展開をみせたが、10.5円のサポートラインのブレイクには失敗。後は下落基調和らぎ一旦反転し、9/6には②と③の中間点での反発上昇といった推移をみせている。



XEMJPY 4 時間足 当社取引ツールより作成

今後の推移は2つのシナリオが考えられる。まず、③の 10.5 円のサポートラインを確認できたシナリオの場合、②の 13 円~13.5 円のレジスタンスラインを試す上昇につながり、再度高値を更新していくことが想定されるであろう。一方、③の 10.5 円のサポートラインを確認できない場合、8.5 円~9.5 円の保ち合い圏までの下落も想定され、8 月の上昇幅の大半を吐き出す可能性があることにも注意が必要といえそうだ。

## ・リップル、三役逆転するも今後の展開は？



XRPJPY 日足当 当社取引ツールより作成

XRPJPY は7月以来の安値を更新している。日足チャートを見てみると、他の銘柄同様に8月に34円の高値（ヘッド）をつけ、ネックラインではもみ合いながらも、32円まで上昇し、そこからサポートラインとなる雲を突き抜けて、ネックラインを割り込んだ。

また、先んじて8/27の下落では、①転換線（黄）による基準線（緑）の下抜けと、②遅行スパン（紫）による8/1のローソク陽線を下抜けを達成しており、③9/5に実体の伴

った陰線で雲を下回ったことで、強い売りシグナルである三役逆転が発生したと考えることもできる。

一目均衡表上では、自律反発局面でも雲下限がレジスタンスとなって、頭を抑えられる可能性や、三役逆転に反応した売りによる下落の加速が考えられるが、この下落はそのまま続くのだろうか？



XRPJPY 週足 当社社内ツールより作成

上記のチャートのボリンジャーバンドを見てみると、7月の後半から8月の半ばまでは $+2\sigma$ の上限ラインを突き抜けて推移していた。34円の高値をつけたのも $+2\sigma$ の上限ラインの外である。RSIを見てみると、この期間は80のライン付近を推移しており、過熱感を示していた。

では現在はどうだろうか？



9月に巻き戻しが入り、7月後半の価格まで戻っている。XRPJPYの価格は中期移動平均線(20MA)付近にあり、RSIも50付近にある。このことから方向を掴めないが、移動平均線が下を向いていないこと、また日足のRSIでは売られ過ぎを示す20のライン付近を推移していることから反発してくる可能性がある。長期の下降トレンドを脱し、32円より上へトレンド転換するためには重要な攻防となりそう。だがもし、このまま24円でサポートされず、下落が続くようであれば、ボリンジャーバンドの $2\sigma$ の下限ラインであり、前回安値の16円前後を視野に入れる必要も出てくるだろう。

(9/7 5:30 作成時点)

- ◆ 本資料においてお客様に提供される情報は、株式会社DMM Bitcoin が収集・作成等したものです。
  - ◆ 本資料は、一般的な情報提供を目的に作成されたものであり、暗号資産取引の勧誘を目的としたものではありません。
  - ◆ 本資料は、本資料作成時点で株式会社DMM Bitcoin が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
  - ◆ 本資料の情報によって生じたいかなる損害についても、株式会社DMM Bitcoin および本情報提供者は一切の責任を負いません。
  - ◆ 本資料のグラフ・データ等は、過去の実績または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。
  - ◆ 本資料に関する著作権、知的財産権、その他一切の権利は、株式会社DMM Bitcoin または権利者に帰属します。お客様は、本資料に表示されている情報をお客様自身のためにのみ利用するものとし、第三者への提供、再配信、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。
- 
- 暗号資産（仮想通貨）は、日本円やドルなどのように国がその価値を保証している「法定通貨」ではありません。インターネット上でやりとりされる電子データです。
  - 暗号資産（仮想通貨）は、価格が変動することがあります。暗号資産（仮想通貨）の価格が急落し、損をする可能性があります。
  - 暗号資産交換業者は金融庁・財務局への登録が必要です。利用する際は登録を受けた事業者が金融庁・財務局のホームページで確認してください。
  - 暗号資産（仮想通貨）の取引を行う場合、事業者が金融庁・財務局から行政処分を受けているかを含め、取引内容やリスク（価格変動リスク、サイバーセキュリティリスク等）について、利用しようとする事業者から説明を受け、十分に理解するようにしてください。
  - 暗号資産（仮想通貨）や計画的なコインに関する関心が増えています。暗号資産（仮想通貨）の持つ課題性を利用したり、暗号資産（仮想通貨）交換業の導入に便乗したりする詐欺や悪質商売にご注意ください。
  - 暗号資産（仮想通貨）は、支払いを受ける側の同意がある場合に限り、その支払いに使用することができます。
  - 暗号資産（現物・レバレッジ）の取引手数料は無料です。レバレッジ取引は建玉を翌営業日まで持ち越すと、建玉金額の0.04%がレバレッジ手数料として発生します。
  - 暗号資産（現物・レバレッジ）取引は、暗号資産（仮想通貨）価格の変動により損失が生じる可能性があります。レバレッジ取引においては、預けた証拠金額を上回る取引が可能である一方、暗号資産（仮想通貨）の急激な価格変動等により、預けた証拠金額を上回る損失が生じる可能性があります。
  - 暗号資産（仮想通貨）レバレッジ取引に必要な証拠金は、各銘柄とも取引の額に対して25%以上となります。
  - 暗号資産（現物・レバレッジ）の価格はスプレッド（売値 (Bid) と買値 (Ask) の差) があります。
  - 上記のリスクは、お取引の典型的なリスクを示したものです。取引に際しては契約締結前交付書面等をよくお読みいただき、それら内容をご理解のうえ、お取引・出資の最終決定は、お客様ご自身の判断と責任で行ってください。

商号：株式会社DMM Bitcoin

暗号資産交換業 関東財務局長 第00010号

第一種金融商品取引業 関東財務局長（金商） 第3189号

加入協会：一般社団法人日本暗号資産取引業協会